

旧岡山県農学校 現高松農業高校地域向け情報誌

備中高松城下町かわら版

http://www.takano.okayama-c.ed.jp/

第 31 号
平成 19 年 3 月 20 日
発行元
岡山県立
高松農業高校
tel 086-287-3711
fax 086-287-3713



2月18日に行われた高松地区健康マラソン大会に本校陸上競技部が参加しました。高校・一般の部(7km)で、松原克博(1Z)優勝、浅野芳徳(1A)2位、竹田航(1Z)と健闘しました。

【朝礼台】

年度を締めくくり、新年度へ

三月一日木曜日、平成一八年度第一〇八回卒業証書授与式が晴天の中でたくさんのご来賓をお迎えして行うことができました。今年度は一八六名の卒業生が巣立っていきましが、卒業生は厳粛に、在校生は思いやりをもって式に参加してくれました。私からは、「高松農業高校で学んだ専門的な知識・技術だけでなく、物の考え方、物事に対する価値観、人生に対するあるべき態度などが、これからの長い人生を根底から支えていってくれるであろう、高松農業高校で出会ったかけがいのない友人や教職員のことを忘れず、高松農業高校の卒業生として自信と誇りを持って活躍して欲しい」とはなむけの言葉を贈りました。その後の校歌斉唱の歌声には、「三年間の学業をなした校歌」という自信と誇りにあふれていました。三年間で生徒一人ひとりが個性を持ち、「いい顔」をして卒業していったと思います。

さて、現在学校では、この一年間の締めくくり業務と次年度に向けた経営方針の確定に取りかかりつつあります。「地域に開かれた信頼される学校づくり」を目標としてこの一年間色々取り組んできましたが、年度の節目で評価し、新たな年度の取組への発展につなげたいと考えています。来年度もよろしくお願いたしませう。

校長より

紙面の都合で所属クラスを略号で示しています。(説明は欄外)

【木漏れ日】

この地域ですつと育ったという原古才に住まいの37才の女性からメッセージをいただきました。今になって思いますが、高校時代ですつと大切でした。勉強ももちろん大切だけれど、部活やいるんなことをする中で、泣いたり笑ったり、しんどい思いをしたこと、あの時頑張ったなあと思えることがとても大切な思い出がします。また、最近の高農生について、どの生徒さんもみんなあいつつてくれませんが、特に、なかなか知らない人にあいつつてくれるのは嬉しいと思つて、生徒さんの方からあいつつてくれるのです。生徒さんの方からあいつつてくれるので、ありがとうございます。

【放課後】

【ラグビー部】 3/16、18
広島県総合合グランド・ラグビー場
平成18年度中国高等学校合同チームラグビーフットボール交流大会に出場。

この大会は、津山高専・林野高と朝日・倉敷南・興譲館・高松農の合同2チームが参加します。なお本校の小野先生がその合同チームの監督を務めます。

【レスリング部】

3/27、29 新潟県新潟市
全国高校選抜大会に出場。1月末の中国高校選抜レスリング大会で準優勝し、3年連続での団体出場になります。個人戦も過去最多の5名(印生徒)が出場します。応援よろしくお願します。

監督 森浩教諭
団体戦選手

- 50kg級 上岡賢人(1E) 守安政晴(1E)
- 55kg級 高橋 啓(2A) 横山幸祐(2A)
- 60kg級 田中義巳(2E) 小野雷也(1E)
- 66kg級 谷坂亮輔(1F) 小田匡峻(2B)
- 74kg級 西山裕祐(2A) 末長 翔(1E)
- 84kg級 高野 秀(1E) 藤森契百(1E)
- 120kg級 横山幸和(2A) 原 竜太(2A)

【射撃部】

3/24、26 富山県・福光射撃場
全国高校選抜大会に出場。

- 男子 七瀬 平(2Z)
- 女子 光畑綾香(1F)

【旅立ち】

送 辞

冬寒さを乗り越え、春の訪れを感じさせます。この新鮮な空気も、淡く色づいた花も、今日の門出の日にふさわしいものとなりました。

この風景を背にし、新たな地へと第一歩を踏み出される卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございませう。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

思い起こせば、先輩方と過ごした日々は、長いようで短く、沢山の思い出を乗せて過ぎ去ってしまいました。

中略



捨てられるものを集めることから出発したナスカの地上絵、自然を大切にしようという一人ひとりの思いが込められ、昨年度にも増して完成度の高い作品となりました。そして部活動、初めての部屋のドアを開けた時、まず飛び込んで来たのは先輩方の笑顔でした。緊張して硬くなった私たちに、明るく話しかけてくださったおかげで、すぐに馴染むことができた。辛い練習に耐えられない時は、優しく声をかけてくださいました。また、怠けそうになった時には、心から叱ってくださいました。どんな時にも熱心に取り組むむむむきな姿に、私たちは強く憧れを抱きました。

ここでは語り尽くせないほどの多くの思い出が、今、私達の中で蘇ります。その中で、一際輝いているのは、先輩方の笑顔です。

その笑顔は、私達にたくさんの希望を与えてくださいました。そして、物事に粘り強く取り組むことや責任を持つことの大切さを教えてくださいました。それは、これからも私達の支えであり、私達の目標です。明日からは、先輩方から教わったことを、私達が受け継いでいきます。

先輩方がいらっしやらない日の校舎は、どことなく静けさが漂っています。それは、先輩方がどれほど活気にあふれていたかを物語っています。まだまだ不慣れた私達は、先輩方のように、上手く後輩を引っ張っていきけるかどうか、不安でいっぱいです。

そんな時は、先輩方がおっしゃった言葉を思い出して、この高松農業高等学校の伝統を守り、後輩達に受け継いでいけるように頑張ります。

最後に、旅立ちを目前とされた先輩方のご多幸と、大いなる活躍を、心よりお祈りし、お別れの言葉といたします。

平成十九年三月一日
在校生代表 生物工学科 井上 智晶

答 辞

暖かな日差しが教室に差し込み、花のつぼみが開き始め、春の息吹が感じられるこの佳き日に、私たち一八六名は岡山県立高松農業高等学校を卒業します。

入学したての頃、これから始まる高校生活に期待を抱きながらも、不安や緊張が募り、教室では居場所を見つけれずいました。けれど、勇気を出して発した「おはよう」の一言に、あいつつを返してくれた時のうれしかった気持ちは今でも忘れられません。

中略

日常生活を離れ、豊かな自然を感じた修学旅行。バスの窓から見た北海道の大地が今でも目に浮かびます。友情を深めたともに北海道の味覚も存分に味わった四日間でした。

体育祭・文化祭ではよりよいものを作ろうとみんなで力を合わせました。自分の特技を生かして物を作り上げていたり、リーダーとしてみんなをまとめることができたりするクラスメイトの姿に、普段では見ることができない頼もしさを感じられ、学ぶことも多々ありました。

最高学年となり、実習でも後輩たちに教えていく機会がふえました。不安な思いを抱きながらも試行錯誤を繰り返していきうちに、自分たちで考え行動し、指示を出していくことが自然にできるようになりました。

中略

これから私達は、自分が決めた目標に向かって大きな一歩を踏み出します。そこへ辿り着くまでに、きつと長い時間や多くの困難が待ち受けているでしょう。それを考えたら、とても不安で仕方ありません。けれども、高校生活で学んだことを胸にどんなことでも頑張つて、挑戦していきける。今、私たちが手にしているものは、未知なる「可能性」と多くの「希望」です。

私たちはまだまだ幼く、家族や先生方を困らせたことが何度もありました。そんな私達を今日まで暖かく見守ってくださった家族のみならず、時には優しく、時には厳しく、進むべき道を真剣に教えてくださいました先生方、本当にありがとうございました。この見慣れた風景も、この着慣れた制服も、いつも隣にいて、笑ったり泣いたり励まし合った仲間とも、どうとうお別れの時がはじまりました。

在校生のみならず、先ほどは心のこもった言葉をいただき、ありがとうございます。一生懸命、勉強に実習に行事に頑張ってください。そうすればきっと何が得られるはずですよ。

そして、みなさんで高農の新しい歴史のページを築き上げてください。

これからの高松農業高等学校のさらなるご発展をお祈りして、答辞といたします。

平成十九年三月一日
卒業生代表 畜産科 竹本 有希

